みんなで

のりこえよう通信

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長室から

令和　2　年　5月　1日　　NO.14

フルトヴェングラ－

　フルトヴェングラ－という指揮者を知っているでしょうか。第二次世界大戦前後に活躍したドイツの指揮者です。

　ベート－ベンの第九。年末によく流れる音楽ですが、1951年に演奏されたバイロイト版と呼ばれる一曲は、伝説的な演奏です。フィナ－レの部分が大暴走しているのです。早い早い。猛スピ－ドで演奏するものですから、弦楽器も打楽器もついていけない。だけど、迫力は満点。

　ちなみにこの演奏の録音部分の最初に巨匠フルトヴェングラーの指揮台に向かう「足音」も録音されていたりして、ファン垂涎(意味を調べよう)のものて゜す。このCDを探すのに大阪の街を歩き回った記憶があります。

　さて、この巨匠ですが、第二次大戦中ヒトラ－率いるナチスに協力したとして、戦後裁判を受け、長い間演奏活動を禁止されます。

　そして、復活の時。

　当時のドイツの人々は、食べるものも我慢して、その復帰演奏会のチケットを買い求めたとか。また、その時の録音が残っていたりして、ファンはたまりません。ちなみに復帰コンサ－トでは、ベ－ト－ベンの五番と六番が演奏されました。ついでに申しておきますと、五番は、「ジャシャジャジ－ン」で有名な「運命」。六番は平和の象徴のような「田園」と呼ばれている一曲。

　ドイツの人の文化意識は高いなぁ、芸術に向かう姿勢は素晴らしいなぁ、同じ敗戦国の日本は、「闇市」とか食べるものの話ばかりで、えらい違いやなあ、と思っていたのです。

　ある時、戦前から古本屋を営むおじさんのエッセイを読んでいるときです。日本で一番古本が高い値段で取引されたのは、戦後すぐのことだそうです。

　ちょうどドイツでフルトヴェングラーが復帰した頃。

　我らが祖先も戦争という大惨事に活字に飢えて文化的なものへのあこがれがあったのです。ドイツ人も日本人も文化を愛する手段や方法は違っても、同じ愛する気持ちは同じだったのだと嬉しくなりました。